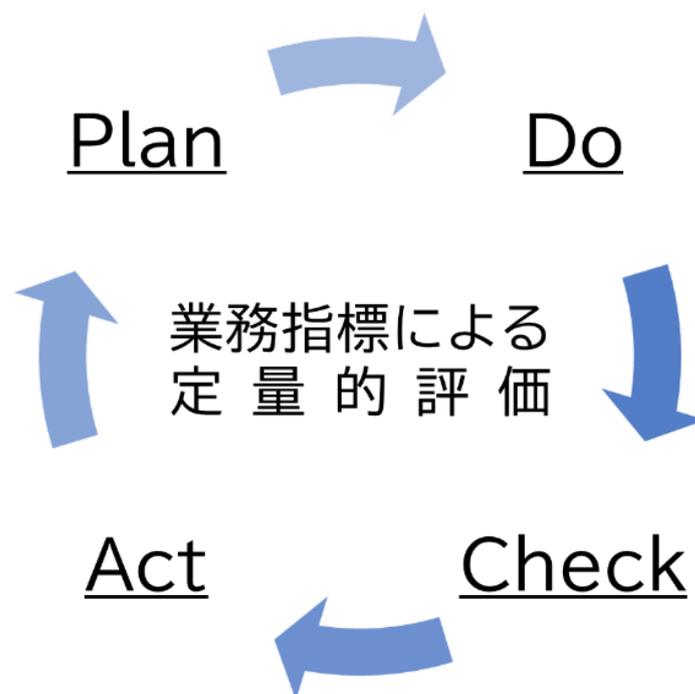


第8章 フォローアップ(進捗管理)

「おだわら水道ビジョン(経営戦略)」では、水道を取り巻く環境を把握した上で、現状と将来を分析・評価し、「いつまでも安心でおいしい水をお届けします」を基本理念とし、今後10年間にわたる水道事業の方向性とそれに基づく具体的な施策及び投資財政計画を示しました。

本ビジョンで示す将来像に向けて施策を進めるなかで、進捗状況とその効果について5年を目途に業務指標(PI)に基づき分析し、業務やサービス水準、経営状況等がどのように変化・改善しているかを評価します。計画と達成状況に大きな乖離が見られた場合は適宜計画の見直しを行います。見直しに当たっては、計画の修正点・改善点を反映させて実行するPDCAサイクル(「計画(Plan)－実施(Do)－検証(Check)－見直し・改善(Act)」)を活用し、継続的に進捗を管理していきます。



進捗管理の方法(PDCA サイクル)

資料編

用語集

(五十音順)

《あ行》

IoT (Internet of Things) 【あいおーていー】／モノのインターネット (p. 95)

建物、電化製品、自動車、医療機器など、パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」にセンサーをつけ、センサーが取得した情報を活用できるようにすることです。

ICT (Information and Communication Technology) 【あいしいーていー】／情報通信技術 (p. 86, p. 98)

通信技術を活用したコミュニケーションのことで、情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称です。物と物を繋げることを意味する IoT とは異なり、人と人を繋げるという意味合いで用いられることもあります。

浅井戸 【あさいど】 (p. 24, p. 38)

不圧帯水層の地下水（自由面地下水）を取水する井戸で、深さは 10～30m以内のものが一般的です。より深いところにある被圧帯水層から取水する井戸は深井戸と呼ばれます。

アセットマネジメント 【あせつとまねじめんと】 (pp. 96-97, p. 107)

中長期的な視点に立ち、水道施設を効率的かつ効果的に管理運営する活動のことで、水道施設・財政両面の健全性を保つことが期待できます。

1日最大給水量 【いちにちさいだいきゅうすいりょう】

(pp. 13-14, pp. 17-18, p. 47, p. 85, p. 87-88)

年間の1日給水量のうち最大のものを1日最大給水量 ($\text{m}^3/\text{日}$) といい、これを給水人口で除したものを1人1日最大給水量 ($\ell/\text{人}/\text{日}$) といいます。

1日平均配水量 【いちにちへいきんはいすいりょう】 (p. 9, pp. 13-14, p. 31, p. 54)

年間総配水量を年日数で除したものを1日平均配水量 ($\text{m}^3/\text{日}$) といい、これを給水人口で除したものを一人1日平均配水量 ($\ell/\text{人}/\text{日}$) といいます。

インバータ 【いんばーた】 (p. 67, p. 102)

直流電圧を交流電圧へ変換する装置で、出力周波数を任意に変換することができます。ポンプやエアコン等のモータの回転速度制御に用いられ、大きな省エネルギー効果が得られます。

飲料水兼用耐震性貯水槽 【いんりょうすいけんようたいしんせいちよすいそう】

(p. 63, p. 65, p. 93)

災害時に飲料水を確保するために地下に設置するタンクです。水道管と繋がっており、通常時は新鮮な水が循環していますが、災害時等には、貯水槽の出入口に設置された弁が閉まり、飲料水を確保します。

SDGs 【えすでいーじーず】 (pp. 4-5, pp. 102-103)

2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。「Sustainable Development Goals」の略で日本では「持続可能な開発目標」の訳が当てられます。

SDGs 未来都市 【えすでいーじーずみらいとし】 (p. 4, pp. 102-103)

SDGs 達成に向けて積極的に取り組みを進める自治体の中から、特に経済、社会、環境の三側面における新たな価値創造を通じて持続可能な開発を実現するポテンシャルの高い都市や地域を認定する制度です。

おいしい水研究会 【おいしいみずけんきゅうかい】 (p. 41, p. 76)

「おいしい水研究会」は、日本の水道水のおいしさの現状とその背景などについて調査を行うとともに、おいしい水の水質要件などを検討するため、厚生省（当時）が設立した研究会です。

応急給水 【おうきゅうきゅうすい】 (p. 68, pp. 72-73, pp. 91-93, p. 105)

地震や事故などにより、水道による給水ができなくなった場合に、耐震性貯水槽や仮設タンク、給水車などを使って飲料水を供給することです。

応急復旧 【おうきゅうふっきゅう】 (p. 91)

地震や豪雨などで水道施設が被災し、水道による給水が不可能になった場合に、給水を早期に再開するために行う復旧作業のことです。

小田原市 景観条例 【おだわらし けいかんじょうれい】 (p. 103)

小田原のまちを美しく、快適で個性豊かな都市に育て、次世代に引き継いでいくため、景観法に基づき平成18年2月に施行された条例であり、建築物の新築や、屋根、外壁の塗り替え等の際に条例に基づく事前の届出と本市が定める景観計画への適合を求めるものです。

小田原市 地域防災計画 【おだわらし ちいきぼうさいけいかく】

(p. 43, pp. 51-53, p. 87, p. 93)

市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、防災対策を総合的かつ計画的に実施するために市が定めた計画です。

OJT (On the Job Training) 【おーじえーていー】 (p. 100)

実際の業務を通して、業務に必要な知識や技術を習得させる能力開発手法です。

《か行》

拡張事業 【かくちょうじぎょう】 (pp. 17-18)

水源の変更や給水量の増加、区域の拡張、浄水処理方法の変更等の厚生労働省が定める認可変更要件に該当し、事業規模を拡大する事業のことです。

神奈川県水道事業広域連携調整会議

【かながわけんすいどうじぎょうこういきれんけいちょうせいかいぎ】 (p. 101)

神奈川県内の水道の基盤強化や、市町村の区域を超えた多様な広域連携の合意形成の促進を目的として令和 3 年 6 月に設置された会議です。事務局は神奈川県政策局が担い、県及び県内の全水道事業者 21 者により構成されています。

神奈川県内広域水道企業団 【かながわけんないこういきすいどうきぎょうだん】

(p. 17, p. 61, p. 75, p. 90)

神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の 1 県 3 市によって構成される企業団で、相模川と酒匂川から取水した原水を県内 6 つの浄水場で水道水に処理し、構成団体が運営している水道事業に供給しています。本市では、飯泉取水堰で酒匂川の表流水を共同取水しています。

企業債 【きぎょうさい】 (pp. 107-108, pp. 110-111)

地方公営企業の建設、改良等に要する費用に充てるために起こす地方債のことです。

給水 【きゅうすい】 (p. 7, p. 17, p. 19, p. 46, p. 50)

給水申込者に対し、水道事業者が布設した配水管より直接分岐して、給水装置を通じて必要とする量の飲用に適する水を供給することです。

給水区域 【きゅうすいくいき】 (p. 13, p. 17, pp. 19-21, p. 39, p. 46, p. 50, p. 72)

水道事業者が厚生労働大臣の認可を受け、一般の需要に応じて給水を行うこととした区域をいいます。水道事業者は、この区域内において給水義務を負います。

給水収益 【きゅうすいしゅうえき】 (p. 16, p. 32, p. 66, p. 107, pp. 110-111)

水道事業会計における営業収益の一つで、水道料金収入収益がこれに当たります。

給水人口 【きゅうすいじんこう】 (pp. 13-14, pp. 16-18, p. 30-31, p. 63)

給水区域内に居住し、水道による給水を受けている人口をいいます。給水区域外からの通勤者や観光客は含まれません。

給水量 【きゅうすいりょう】 (pp. 13-14)

給水区域内の給水申込者に対して実際に給水を行った水量をいいます。

急速ろ過 【きゅうそくろか】 (p. 26, p. 36, p. 38, p. 94)

凝集剤を用いて細かな粒子を凝集させ、これをろ過することで清澄な水を得る浄水方法です。

凝集沈でん 【ぎょうしゅうちんでん】 (p. 26)

水道原水にポリ塩化アルミニウムなどの凝集剤などを加え、微細粒子を凝集させフロック化した後、固液分離することで清澄な水を得る水処理プロセスの一つです。

業務継続計画 (BCP) 【ぎょうむけいぞくけいかく (Business Continuity Plan)】 (p. 63)

災害など事業の継続に影響を与える事態が発生した場合において、たとえ業務水準が下がっても事業を継続させ、目標に定めた期間内に業務レベルを元に戻すことを目的に策定する計画のことです。

業務指標 PI 【ぎょうむしひょう Performance Indicator】

(pp. 33-35, p. 42, p. 45, p. 47, p. 50, p. 54, p. 63, pp. 66-68, pp. 77-78, p. 81, pp. 104-105, p. 112)

水道事業の施設整備状況や経営状況等を客観的な数値で評価するもので、日本水道協会の「水道事業ガイドライン JWQA Q 100」によって規格化されています。「安全」、「安定」、「健全」の3つの分野に分類された全 119 項目の指標で構成され、これらを用いて、指標の推移を表したり、他の事業体と比較することで水道事業体の経営状況を把握することができます。

橋りょう添架管 【きょうりょうてんがかん】 (pp. 51-53, p. 83, p. 86)

河川などを横断するため、橋桁の側面などに取り付けられた水道管のことです。

杭 (杭基礎) 【くい (くいきそ)】 (pp. 77-78)

軟弱な地盤に構造物を建設する場合に、構造物を支えることのできる層 (支持層) まで杭を打ち込み、構造物の荷重を杭で支持層に伝える基礎形式のことです。

クリプトスポリジウム 【くりぷとすぼりじうむ】 (p. 34, p. 38, p. 71, p. 75)

塩素による消毒が効かない病原性微生物で、食物・水を介して口から感染した場合、下痢や腹痛の症状が現れます。ろ過処理によって除去できますが、厳密な運転管理が必要となります。

経営戦略 【けいえいせんりやく】 (p. 1, p. 3, p. 106, p. 112)

地方公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画のことです。

減価償却費 【げんかしょうきゃくひ】 (pp. 110-111)

固定資産の取得に要した費用をその資産を使用できる期間 (耐用年数) に渡って配分し、その額を費用として計上するものです。経年劣化により減少する資産の価値とも言い換えることができます。

建設副産物 【けんせつふくさんぶつ】 (p. 35, p. 67)

建設工事に伴って発生した物品のことで、建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材等が挙げられます。「廃棄物」として定義されるものと「再生資源」として定義されるものがあり、建設リサイクル法では建設工事において、再生資源の使用が義務付けられています。

鋼管 【こうかん】 (p. 48, p. 76, p. 79)

材料に鋼を用いた強度、靱性に富んだ管です。溶接継手により連結されるため継手部の抜け出し防止策が不要で、その反面、錆びやすいので内外面に防食塗装を必要とします。

高性能高密度ポリエチレン管 【こうせいのうこうみつどぼりえちれんかん】 (pp. 79-81, p. 84)

軽量で耐震性に優れた管種として主にφ150mmまでの小口径管路として多く採用されています。EF接合と呼ばれる電気融着が採用されてからは、多くの大地震に耐え、その耐震性が高く評価されています。

更新 【こうしん】 (p. 1, pp. 6-7, p. 18, pp. 31-34, pp. 45-46, p. 67, pp. 70-71, pp. 74-75, pp. 77-79, p. 81, pp. 85-89, pp. 96-97, p. 103, pp. 105-106, p. 109)

既存の水道施設の全部または一部を撤去し、新しい施設を設けることです。

公民連携 【こうみんれんけい】 (p. 4, p. 70, pp. 72-73, p. 94, p. 105)

社会経済情勢の変化や住民の暮らし方の変化によるニーズの多様化に対応するため、自治体と民間事業者等が連携して公共サービスの提供を行う仕組みです。

コーホート要因法 【こーほーとよういんほう】 (p. 30)

人口推計手法の1つで、コーホート（同年（または同期間）に出生した集団）に着目し、その集団ごとの時系列変化（出生、死亡、移動）を将来にわたって予測するものです。

《さ行》

残留塩素 【ざんりゅうえんそ】 (p. 33, p. 39, p. 41, p. 47, pp. 104-105)

水道水に含まれる塩素のことで、水道法によって、蛇口から出る水道水には、必ず一定以上の残留塩素が残るように定められています。しかし、一定の濃度を超すと水のおいしさを損ねてしまう塩素臭の原因となります。

事業認可 【じぎょうにんか】 (p. 7, p. 17, p. 45, p. 101)

水道事業または水道用水供給事業を営もうとする際に、厚生労働大臣または都道府県知事から受ける認可のことです。本市は厚生労働大臣から事業認可を受けています。

資産減耗費 【しさんげんもうひ】 (pp. 110-111)

固定資産を廃棄する際に、固定資産のまだ減価償却費として費用化されていない額（残存価値）を費用として計上するものです。

施設 【しせつ】 (p. 1, pp. 5-7, p. 18-36, p. 42-106, p. 109)

浄水場や配水池などの池状構造物や管理棟といった構造物を指します。

浄水 【じょうすい】 (p. 1, pp. 4-5, pp. 17-19, p. 22, pp. 25-26, p. 28, p. 31, pp. 34-36, p. 38, p. 42, p. 44, pp. 46-47, p. 50, pp. 54-55, pp. 61-62, p. 65, pp. 67-78, pp. 85-87, pp. 89-90, pp. 94-95, pp. 98-100, pp. 102-105, p. 109)

河川、湖沼、地下水などの原水中に含まれている不純物質を取り除き、水質基準を満たした水道水となるように処理された水自体やその処理工程全体のことをいいます。

浄水技術継承支援システム (A-Batons+) 【じょうすいぎじゅつけいしょうしえんしすてむ】
(p. 100)

公益財団法人水道技術研究センターが開発した浄水分野における技術継承及び人材育成を支援するシステムで、浄水技術データベース、浄水技術学習プログラム、技術継承評価ツール、という三つのアプリケーションによって構成されています。A-Batons は *Aqua-Best available technology on new system(to Next Generation)* の略称であり、アクア-バトンと呼称します。

新水道ビジョン 【しんすいどうびじょん】 (p. 1, p. 3, p. 40, p. 73)

水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、厚生労働省が平成 25 年 3 月に公表した新たなビジョンのことです。同ビジョンでは、50 年後、100 年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、取り組みの目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担等が示されています。

水管橋 【すいかんきょう】 (p. 34, pp. 46-67, pp. 50-52, p. 69, p. 86)

河川などを横断するときに設ける水道管専用の橋のことです。

水質基準項目 【すいしつきじゅんこうもく】 (p. 39, p. 41, p. 75)

水道法第 4 条に基づき厚生労働省令により定められた水質基準であり、水道により供給される水はこの基準に適合しなければなりません。2020 年 4 月 1 日現在、51 項目の水質基準値が定められています。

水質管理目標設定項目 【すいしつかんりもくひょうせっていこうもく】 (p. 39, p. 75)

水道法で定められた「水質基準項目」を補完する項目として設定されている水質項目で、より質の高い水道水を供給するための目標値と考えることが出来ます。

水道管路情報管理システム 【すいどうかんろじょうほうしすてむ】 (p. 86, p. 95, p. 100)

水道管路の埋設位置、管種及び口径などをシステム上で可視化することができる地理情報システム (GIS : Geographical Information System) です。

水道事業ガイドライン 【すいどうじぎょうがいどらいん】 (p. 33, p. 105)

水道事業の事業活動全般を分析・評価するための各種規格を総合的に考慮し、水道事業の定量化によるサービス水準の向上のために日本水道協会が制定した規格であり、平成 17 年度に発表されました。その後、平成 28 年度に JWQA Q 100:2016 として改訂されて現在に至っています。この規格によって定められた指標が業務指標 (PI) であり、今回ビジョンでは、JWQA Q 100:2016 に基づく業務指標 (PI) を用いて本市の水道事業の経営状況を評価しています。

水道施設 【すいどうしせつ】 (pp. 5-7, pp. 20-21, p. 31, p. 36, p. 42, pp. 45-47, p. 54, pp. 56-57, pp. 61-63, p. 71, pp. 73-78, pp. 85-87, p. 89, p. 91, pp. 94-96, p. 100, p. 102-103, pp. 105-106)

水源、取水、浄水、配水に係わる施設、設備及び管路を指します。

水道スマートメーター 【すいどうすまーとめーたー】 (p. 95, p. 107)

水道の使用量を人が検針するのではなく、ネットワークを介して自動検針するものです。測定間隔も従来の月単位ではなく、時間単位や分単位での計測が可能であるため、漏水の早期発見や水運用の高度化などへの活用も期待されています。

送水 【そうすい】 (pp. 25-26, pp. 28-29, p. 45, p. 52, p. 55, p. 71, p. 81)

浄水場で処理された水を配水池へ管路によって送ることです。

《た行》

第三者委託 【だいさんしゃいたく】 (p. 94, pp. 104-105)

浄水場の運転管理業務などの水道の管理に関する技術上の業務について、技術的に信頼できる他の水道事業者等や民間事業者といった第三者に水道法上の責任も含めて委託するものです。専門的な知識を要する業務において、民間事業者等の技術力を活用しやすいと言われており、個別の業務を一括して委託することから事業全体の効率性向上も期待できます。

耐震管 【たいしんかん】 (p. 34, p. 45, p. 76, pp. 79-81, p. 84, p. 86)

導・送・配水管における耐震型継手を有するダクタイル鋳鉄管、鋼管及び水道配水用ポリエチレン管(高密度)をいいます。本市では、震度6強以上の地震動に耐え得るこれらの水道管をレベル2耐震管、震度6弱でも一定の耐震性を有するK形やA形などの継手を有するダクタイル鋳鉄管をレベル1耐震管と定義しています。

耐震継手 【たいしんつぎて】 (p. 48, p. 84)

水道管同士を接続する継手に大きな伸縮性と離脱防止機能を持たせ、地震や地殻変動に対する安全性を高めた継手です。

ダウンサイジング 【だうんさいじんぐ】 (p. 81, p. 85, p. 87, p. 96)

水需要に合わせた施設能力の適正化や管路の減径など、導入コストや維持管理費用の削減を目的に規模を小型化することを言います。

ダクティル鑄鉄管 【だくだいるちゆうてつかん】 (p. 48, p. 79, p. 84)

鑄鉄に含まれる黒鉛を球状化させたダクティル鑄鉄を材料とする管路で、鑄鉄管（普通鑄鉄管、高級鑄鉄管）に比べ引張強度が高く、現在最も多く使用されている水道管種です。管と管を接合するための「継手」には、地震による地盤変動に強い「耐震継手」（NS 形、GX 形等）とそれ以外の「一般継手」（A 形、K 形等）があります。

濁度 【だくど】 (pp. 36-37, p. 39, p. 71, p. 74)

水の濁りの程度を表します。水道では、原水の濁度は浄水処理に大きな影響を与え、浄水管理上の指標となります。水道法第4条に基づき省令により定められている水質基準として、給水栓では2度以下とすることが定められています。河川においては、雨天による表土や土砂の流入が発生するとともに、増水により河床が洗掘されることで濁度が急上昇することがあります。

脱水ケーキ 【だっすいけーき】 (p. 103)

浄水場の処理過程で取り除かれた原水に含まれる浮遊物質を濃縮して脱水した後に残る固形物のことです。

地方公営企業 【ちほうこうえいきぎょう】 (p. 32)

地方公共団体が経営する水道事業、工業用水道、交通、電気、ガス、簡易水道、港湾整備、病院、市場、と畜場、観光施設、宅地造成、公共下水道の13事業を指します。これらの事業は地方公共団体の会計からは独立した会計によって運営され、自らの料金収入などによって事業を運営することが基本とされています。

鑄鉄管 【ちゆうてつかん】 (p. 48, p. 79, p. 84)

鉄、炭素（含有量2%以上）、ケイ素からなる鉄合金（鑄鉄）で作られた管のことです。本市では、新しく布設する水道管には使用していません。ダクティル鑄鉄管と区別するために普通鑄鉄管とも呼ばれています。

DBO (Design Build Operation) 【ディービーオー】 (p. 94)

公共の資金調達により施設を建設し、民間事業者に設計・建設・運営・維持管理を一体的に委ねる民間委託方式です。施設の所有権は公共が保有しますが、事業主体は民間事業者となります。一般的な事業期間は10年から30年程度であり、施設整備に伴う資金調達は水道事業者が担います。

DX (Digital Transformation) 【でいーえっくす】 (p. 69, p. 72)

ウメオ大学 (スウェーデン) のエリック・ストルターマン教授が平成 16 (2004) 年に提唱した、「ICTの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念です。英語圏で「Trans」を「X」と略すことから、デジタルによる変革 (Digital Transformation) は「DX」と略されています。

導水 【どうすい】 (pp. 25-26, pp. 28-29, p. 45, p. 71, p. 81)

原水を取水施設から浄水場まで送ることです。本市では、飯泉取水ポンプ所から高田浄水場までの導水管を布設しています。

特別高圧受電 【とくべつこうあつじゅでん】 (p. 89)

特別高圧 (概ね 1 万ボルト以上) で電気の供給を受け、契約電力が原則として 2,000kW 以上のものに適用される電力の契約種別です。主に大規模工場や鉄道業等に適用されています。

《な行》**ねじ鋼管 【ねじこうかん】 (p. 48, p. 79, p. 86)**

継手部分がねじのようになっている鋼管のことです。施工現場での加工性に優れるなどの特徴から、防食性や耐震性がより優れた管種が流通するまでは古い小口径管を中心に多く採用されてきました。

《は行》**バイオアッセイ 【ばいおあっせい】 (p. 75)**

装置内のメダカや金魚の様子を常時観察し、水質に何かしらの異常が生じた際に早期に発見する装置のことです。

配水 【はいすい】 (pp. 17-19, pp. 22-29, p. 34, p. 38, p. 42, p. 44, pp. 45-50, p. 52, pp. 54-55, pp. 62-65, p. 67, pp. 71-78, p. 81, pp. 85-90, p. 93, p. 96, pp. 103-105, p. 109)

浄水場において浄水された水を、水圧、水量、水質を安全に保ったままお客様に輸送することです。

配水池 【はいすいち】 (pp. 17-19, p. 28, p. 34, p. 42, p. 44, p. 46, p. 52, pp. 54-55, p. 65, p. 71, p. 76, p. 78, pp. 85-86, pp. 88-89, p. 96, pp. 103-105, p. 109)

配水量の時間変動を調節するために、水道水を一時的に貯留する池のことです。配水池は、地震、停電等による浄水場の機能停止や水源汚染事故による取水停止時等に対応する機能も合わせ持っています。主な構造形式として、PC(プレストレストコンクリート)造、RC(鉄筋コンクリート)造、SUS(ステンレス)造、FRP(繊維強化プラスチック)造があります。

表流水 【ひょうりゅうすい】 (p. 17, p. 19, p. 24, p. 26, p. 36, p. 38, p. 71)

一般に川や湖沼にある水のことを指し、地表水ともいいます。

深井戸 【ふかいど】 (pp. 17-19, p. 24, p. 38, p. 87)

粘土などの水を通しづらい地層に挟まれたおよそ地下30m以上の深い帯水層から取水する井戸であり、ケーシング、スクリーン及びケーシング内に吊り下げた揚水管とポンプで構成されています。

伏流水 【ふくりゅうすい】 (p. 17, p. 24, p. 38)

河床や旧河道などに形成された砂利層を流れる水のことをいいます。

富士山火山防災対策協議会 【ふじさんかざんぼうさいたいさくきょうぎかい】 (p. 61, p. 90)

富士山の火山災害に対する防災体制の構築と地域住民の防災意識の向上などを目的とした協議会で、平成24年6月8日に内閣府によって設置されました。

布設替え 【ふせつがえ】 (p. 33, p. 76)

古い水道管を新しく丈夫な水道管に取り替える工事のことです。古い水道管は外面の腐食による穴や内面に生じた錆により漏水や濁り水の原因となるため、定期的に布設替え工事を行います。

ポアソン分布 【ぽあそんぶんぷ】 (p. 43)

統計学において使われる代表的な確率計算方法の一つであり、「減多に起こらない出来事が任意の時間当たりに起こる回数」を表す確率分布です。

法定耐用年数 【ほうていたいようねんすう】 (p. 31, p. 47)

地方公営企業法施行規則に定められた固定資産が、その本来の用途に使用できるとみられる推定の年数をいいます。法定耐用年数は固定資産の減価償却を行うための基本的な計算要素として、取得原価、残存価額とともに必要なものです。

ポンプ 【ぼんぷ】 (p. 19, pp. 24-25, pp. 34-35, p. 38, p. 42, p. 50, pp. 54-55, pp. 61-62, p. 65, p. 67, pp. 89-90, p. 96, p. 102)

回転運動または往復運動によって生じたエネルギーを用いて水を高いところに送ったり、汲み上げたり、混ぜたりすることができる機械を指します。

《ま行》

膜ろ過 【まくろか】 (p. 26, pp. 37-38, p. 71, p. 94)

非常に細かい穴を持つ膜部材に水を通すことで水中の物質と水分を分離するろ過方法をいいます。穴が小さいほど多くの種類の物質を分離することができますが、膜の洗浄回数やろ過に必要な圧力が上昇します。

水安全計画 【みずあんぜんけいかく】 (p. 36, pp. 73-74)

食品衛生管理手法であるハサップ (HACCP : Hazard Analysis and Critical Control Point) の考え方を導入し、水源から蛇口までのあらゆる過程において、水道水の水質に悪影響を及ぼす可能性のあるすべての要因 (危害) を分析し、管理対応する方法をあらかじめ定めるリスクマネジメント手法です。

無効水量 【むこうすいりょう】 (p. 13)

料金徴収の対象とならなかった水量のことです。配水本支管、水道メーターより上流部での給水管からの漏水量、認定減額水量、他に起因する水道施設の損傷などにより無効となった水量及び不明な水量をいいます。一般的には漏水が無効水量の多くを占めます。

《や行》

有収水量 【ゆうしゅうすいりょう】 (p. 13, p. 32, p. 66, p. 110)

料金徴収の対象となった水量を有収水量といい、これを給水量で除したものを有収率といいます。

湧水 【ゆうすい】 (p. 19, p. 24, p. 26, p. 38)

地下水が地上に湧き出したものを湧水といいます。一般的に表流水に比べて水量は劣るものの、水質には優れています。

溶接鋼管 【ようせつこうかん】 (p. 79)

鋼板または帯鋼を管に成形し、継目を溶接して製造した鋼管のことです。

《ら行》

漏水 【ろうすい】 (p. 7, p. 13, p. 34, pp. 47-50, pp. 69-71, p. 73, p. 76, p. 86, p. 94, pp. 98-99, pp. 104-105)

水道管から水が漏れてしまうことです。地上に漏れ出して発見が容易な地上漏水と、地下に浸透して発見が困難な地下漏水とがあります。管の材質、老朽度、土壌、腐食、地盤沈下、施工不良、または、舗装厚、大型車両化による路面荷重、そして他工事における損傷などが漏水を発生させる原因と考えられています。

(空 白)